

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	奈良県 東吉野村	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	東吉野村小川祭保存活用事業	【計画の改善時期】 平成 年度	
4 実施計画期間	平成 30 年度 ～ 平成 34 年度		
5 実施計画の概要			
東吉野村で最大で村を代表する小川祭（丹生川上神社例大祭）は毎年10月の第2日曜日に開催されます。8ヶ大字から氏子が色とりどりの太鼓襦袢を着て太鼓台（山車）を繰り出し、かけ声も勇ましく境内を練り歩く様は多くの参拝客を魅了します。また、村外に住む親戚や若者、知人が小川祭に合わせて帰村してくるので村が一番賑わうときでもあります。 しかしながら、この太鼓台等が経年劣化により傷んできおりそのまま放置すると祭に参加できない太鼓台が出てくる事が懸念されます。また、乗り子や担ぎ手不足も深刻な問題となりつつあります。先に述べたように現在お祭りは地域住民のコミュニティの場でありまた、村を離れている人が故郷へ帰ってくる良い機会となっています。 この事業により歴史的伝統文化の伝承継続を可能にするとともに東吉野村への観光客の増加や祭存続に欠かせない乗り子や担ぎ手を確保するといった地域全体で文化遺産を保存・継承し、活用していくための体制の確立を目指します。 また、東吉野村としても補助金を支出することによりこの伝統文化を守っていきたいと考えております。			
6 実施体制			
本実施計画に係る全体の企画、調整や、各種補助事業に係る指導等は以下の担当課が行う。 東吉野村教育委員会事務局：補助事業における文化遺産の取扱等に関する指導・調整等 東吉野村役場地域振興課：観光業務に関する連携等 また、補助事業は次の団体が実施する。 東吉野村小川祭保存活用実行委員会 構成団体（小川祭保存会、8ヶ大字区長、教育委員会事務局）			
7 実施計画における目標と期待される効果			別紙①のとおり
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 千円	平成30年度申請額： 7,564 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
太鼓台の保存修理により文化的価値の保護が図られるとともに後世に長く継承することができる。また、小川祭の映像を各施設に配布することで普及啓発を図るとともに祭礼文化継承のすその拡大が期待でき、水引幕や太鼓台の文化的価値を多くの人達に周知することができる。さらに、乗り子や担ぎ手の勧誘にあたり映像を利用することで祭の内容を理解してもらい多くの人が参加しやすくなる。			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
事業概要：			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
現在東吉野村では歴史文化基本構想の策定には至っていない。それは、文化財が村民の身近に感じられていないからでもあり、本事業の実施により文化財に対する住民の関心が高まり、文化財を守り継承していかなければいけないという機運の高まりにより歴史文化基本構想策定への足がかりとし、本事業終了後に取り掛かっていきたい。			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	東吉野村教育委員会事務局		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1：	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1：	地域の祭礼行事等への入込客数（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標 1：	小川祭の入込客数			関連事業：	①②	
目標値 1：	【現状値】 平成 29 年度 1,700 人 ⇒ 【目標値】 平成 34 年度 2,200 人					
設定根拠 1：	1 年につき 1 0 0 人の増加を目指す。					
進捗状況 1：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 2：	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 2：	祭礼行事への参加住民数（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標 2：	小川祭の各区（小川・小・小栗栖・中黒・三尾・狭戸・大豆生）把握の参加人数			関連事業：	①②	
目標値 2：	【現状値】 平成 29 年度 551 人 ⇒ 【目標値】 平成 34 年度 610 人					
設定根拠 2：	1割増加を目指す。					
進捗状況 2：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	
人	人	人	人	人	人	

様式 1 - 1 別紙②

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	小川祭記録映像作成事業	実施団体：	東吉野村小川祭保存活用実行委員会			
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 34 年度			
事業概要：	小川祭使用の太鼓台の修復及び小川祭について記録撮影を行う。記録映像作成にあたっては、学識経験者からなる委員会を組織し内容を吟味する。これにより小川祭参加者や観覧者の増加を図る。					
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し（又は利用）回数等				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	小川祭の各区（小川・小・小栗栖・中黒・三尾・狭戸・大豆生）把握のDVD貸出回数					
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 0 回 ⇒ 【目標値】 平成 34 年度 80 回					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	
回	回	回	回	回	回	
事業②：	小川祭使用太鼓台等修復事業	実施団体：	東吉野村小川祭保存活用実行委員会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 34 年度			
事業概要：	学識経験者からなる修理委員会を組織しその指導助言の下、小川祭使用の太鼓台の修復をおこなう。太鼓台の傷み具合を良く吟味し5年間で8ヶ大字（小川・小・小栗栖・中黒・三尾・狭戸・大豆生）のどこをどう修理していくのかをよく検討し計画的に修復を進めて行く。					
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	小川祭の各区（小川・小・小栗栖・中黒・三尾・狭戸・大豆生）把握の参加人数					
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 551 人 ⇒ 【目標値】 平成 34 年度 610 人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	
人	人	人	人	人	人	